

## 副作用に関する情報提供により重篤化を回避した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、副作用に関する情報提供を行うことで、副作用の重篤化を回避し、安全な薬物療法の提供に寄与できたプレアボイドを紹介いたします。

### 患者背景

▶非小細胞肺癌の治療目的でロープレナ錠が服用開始となった患者

【採血結果（一部抜粋）】

ロープレナ錠 開始前

トリグリセリド 61mg/dL、LDL コレステロール 129mg/dL

ロープレナ錠 開始後

トリグリセリド 293mg/dL、LDL コレステロール 186mg/dL



Bさん



医師

Bさんのことで相談があります。  
ロープレナ錠を服用開始後に、トリグリセリドとコレステロールの値が上昇しているようです。  
ロープレナ錠は、高率に高脂血症を引き起こすことが知られており、トリグリセリド、コレステロールの上昇が見られた時点でスタチンの開始が推奨されております。<sup>1)</sup>  
スタチンの服用を開始されてはいかがでしょうか。



薬剤師

そうですね、まずはプラバスタチンを開始して様子を見ましょう。  
1週間後に再検査します。

【1週間後の採血結果】

トリグリセリド 358mg/dL、LDL コレステロール 219mg/dL



Bさんですが、プラバスタチンを内服されても、トリグリセリドとコレステロールが上昇しております。プラバスタチンの増量、またはストロングスタチン<sup>\*</sup>への変更はいかがでしょうか。



ありがとうございます。それではプラバスタチンを、ロスバスタチンに変更することにします。

その後もトリグリセリド、コレステロールの値は高値であったが、ロープレナ錠の休薬や中止には至らずに、内服を継続したまま退院となった。

副作用に関する情報提供を行い、早期に副作用の対応を行うことで重篤化を回避し、安全な薬物療法の提供に寄与できた。

※ストロングスタチン<sup>2)</sup>：ロスバスタチン、ピタバスタチン、アトルバスタチン  
(アトルバスタチンはロープレナ錠と併用注意<sup>3)</sup>)

参考文献：1)ロープレナ錠 適正使用ガイド 2)今日の治療薬 2023 3)ロープレナ錠 添付文書